

看護研究・教育を支える医学情報サービス

－文献を探し・読み・活かすための協働－

内海桃絵

京都府立医科大学大学院保健看護学研究科

看護学における研究・教育・実践は、文献や情報を適切に活用することによって支えられている。特に近年は、研究論文や診療ガイドライン、インターネット上の医療情報、生成 AI による要約など、多様な情報に容易にアクセスできる一方で、それらを適切に検索し、評価し、活用する力の重要性が一層高まっている。しかし、情報があふれる時代であるからこそ、「どのように探すか」「何を根拠として読むか」「実践や研究にどのように活かすか」が問われている。

看護学は医学のみならず、心理学、社会学、教育学など多領域にまたがる学際の特徴を持つ。また、患者の生活や価値観、家族、地域といった文脈を重視する学問であり、扱う概念や研究方法も多様である。そのため、看護研究における文献検索では、単にキーワードを入力するだけでは十分ではなく、研究課題をどのように言語化し、適切な検索語へ変換するかが研究の質にも大きく影響する。さらに、研究論文を読む際には、研究デザインや方法論を理解し、結果を批判的に吟味する力も求められる。

一方、看護教育の現場では、学生がインターネット検索に依存しやすいことや、検索語の設定、情報の評価、引用の方法などに困難を抱えている現状がある。加えて、生成 AI の普及により、情報を容易に得られるようになった一方で、出典や根拠を確認する姿勢、複数の情報を比較しながら考える姿勢をどのように育てるかが新たな課題となっている。文献検索教育は単なる検索技術の習得ではなく、「問いを立てる力」「情報を批判的に読み解く力」「根拠をもとに考える力」を育てる教育でもある。

このような状況の中で、医学情報サービス専門職への期待はますます大きくなっている。文献検索支援やデータベース利用支援に加え、研究支援、システマティックレビュー支援、情報リテラシー教育、研究公正への支援など、その役割は広がりつつある。また、看護教員と図書館司書が協働しながら学生や研究者を支援することは、看護研究・教育の質向上にもつながると考える。

本講演では、看護研究・教育における文献検索の意義を整理するとともに、情報を「探し・読み・活かす」力をどのように育てるかについて考える。また、AI 時代における情報リテラシー教育の課題にも触れながら、看護教員と医学図書館員との協働の可能性について議論したい。